前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏 (法人	人にあっては名称)									は主たる事	事業所の) 所在地)			
名 黒崎摺	黒崎播磨株式会社					ᇎ	〒 806-8586 福岡県北九州市八幡西区東浜町1番1号								
	所									7					
n stee															
主たる業績	性	ード	21	耒悝 名:	羔耒 '	工口袋的袋垣	E								
事業の 概 要	鉄鍋	向け	耐火物	勿(定形・	不定刑	ジ)及び電子部品	品向≬	ナセラ	ミックス	の製造販	売				
	番号	÷		工力	昜等の	名称				所 在	E ‡	也			
	1	① 備前工場					岡山県備前市浦伊部1175								
県内の															
主な															
工場等															
特定事業	\vdash	小	然料等原	原油換算1,5	500ke以	.上 🗌 ②バス・ト	ラック1	00台、	タクシー250	0台以上	30	02換算3	,000t以上		
の該当要	件	(●□	[場等(の数		1 所		車両台	数(②該	変当の場合))		台)		
温室効果ガ	ス 寿	進年	度(全	<u></u> 分和 元	年度)	(令和	5)年度	排出量	目標年	度(令	和 (5 年度)		
排出量	F			1,156 t((1. 1.	8, 518 t CO ₂ 10, 598 t CO ₂								
21111	3	番号 工場等の名称						(令和 5)年度排出量							
		① 備前工場							8, 518 t CO ₂						
	F								t CO ₂						
主な工場等の排出量	争												t CO ₂		
♥クオタチ凵里													t CO ₂		
													t CO ₂		
													t CO ₂		
	=	上面中	期間:	令	禾□ '	2 年度	\sim		合和 6	5 年度	(5	簡年度)		
削減目標の	の	_				2		-		列 平及 削減率	(目標達	· · · · · · · · ·		
達成状況	2	□ 総排出量基準 □ 原単位基準					% %						□ 未達		
												IX.	山 木厓		
(原単位基準	進	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容						甘淮左帝 / 「)左帝 □標左帝							
の削減目標を 選択している								基 中 円 及 日 信 日 信 日 信 日 信 日 信 日 信 日 信 日 信 日 信 日					<u>保</u> 中皮		
場合に記入)								CO ₂ /()	CO ₂ / ()	CO ₂ /()		
(該当事業	者のみ	な記入	.)				1	·				/ (
	(該当事業者のみ記入)ベンチマーク対象事業の名称ベンチマーク				ベンチマーク扌	皆標 関連数値(令和 5 年度) 達成率等									
指標の状況	ا ا														
【削減状汚	a ற É	日割	[插]												

①電材工場における都市ガス使用新設焼成炉の本格稼働により、従来のLPG使用炉を休止させたため、昨年度は0でありCO2排出量削減効果が出ている②工場内、事務所内並びに街灯のLED化を推進し、LED比率が一昨年度80%⇒昨年度90%まで上昇した。③冷暖房機器の使用温度管理を徹底し、特に少数しか出勤しない休日での管理について取り組んだ結果、休日の電力使用量が低減出来た。④事務所、休憩所、食堂などでの昼食時、休憩時の消灯の徹底を引き続き継続している。

【推進体制】

環境管理委員長(窯炉製造部事業部部長)-工場事務局(窯炉製造事業部備前業務Gr長)が中心となり、3 工場、2事務所の5グループそれぞれに環境グループリーダーを配置し、毎月の目標値(電力使用量、燃料使用量、産業廃棄物処理量、事務所ゴミ廃棄量)に対する進捗状況のフォロー及び環境関連技術開発、法的要求事項遵守、教育・訓練などの状況について毎月報告書を受領し確認している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

【目標削減率達成のために	実施した措置及び今後の取組】
工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
備前工場	(令和5年度実施分) ①工場敷地内の蛍光灯、水銀灯についてLEDへの全面切り替えを進行。当期はトータル90%まで進めた。 ②休憩時間、休日出勤時での冷暖房使用時間の削減。使用開始基準時間が到達までは使用しない事を徹底。
	(今後実施予定分) ①工場内全域のLED化を本社安全環境防災推進本部の指導を受けながら、全機種をLEDとすべく順次進めて行く。 ②各種の設備更新時には省エネタイプの機器に変更していく。 ③昼食時、休憩時の消灯及び冷暖房使用温度管理についても従来通り継続していく。

【森林保全	· 等吸」	 収源対策への取	<u></u>						
県内で の取組	無								
その他	無								
【再生可能	ニエネ	レギーの導入】							
県内で の取組	無								
その他	無			 	_	 	_	_	
【その他特	宇記事								

【その他特記事項】